悪性の上顎歯肉癌

ステージ４です

九州歯科大附属病院を訪ねた。紹介状の宛先高橋先生は丁度不在で吉賀先生。口の中を見て「すぐこれから記念病院（小倉）で循環器系の検査をしてください。紹介状を書きます」。この時点でただならぬ状態である事を感じ始めた。

歯科で循環器系の検査をしろということは手術に耐えうる身体測定だ。そのまま記念病院に直行した。

　（　以降、歯科大、記念病院、戸畑共立病院などで胃カメラ、冠動脈CT、頸部エコー、造影剤CT、MRIなど検査が続いた）

WBC侍ジャパン金メダル獲得で列島が沸く３月22日、午後3時、歯科大付属病院口腔外科に私は妻といた。

高橋先生「悪性の上顎歯肉癌です」

私「いわゆる一般的に言うステージは？」

先生「Ⅳ（４）です」

それだけでショックなのに、さらに先生が付け加えた。

「左の首、いわゆる頸部リンパ節にも転移しているようです」

私は絶望した。でも生きたい気持ちは誰も同じ。

私「放射線とか抗がん剤治療ではダメですか」

先生「それをしても再発の可能性は残ると思います。あなたの状況では切除しかないと私は思います」

手術の内容を聞いた。

左顔の目付近から鼻のそばを通り口まで切り開き上顎（全歯含む）を腫瘍ごと切り取る。植皮は腹の一部からとる。頸部リンパ節は首からメスを入れ腫瘍を切り取る。首の植皮はできないのでそのままーー（穴が開いたまま、ということ）

手術時間は？と聞くと「10ー12時間はかかると思います」術後遺症も生活の質を大きく変える驚くものでした。私は愕然としました。

しかし自分でも不思議なくらい腰が座っていた。多分、　　　　命と治療を天秤にかけたのだろう、抗がん剤や放射線くらいで勝てる相手ではないと納得、開き直り決心したのかもしれない。

私は妻の表情と“めくばせ”しながら言った。

「とにかく、その方法でお願いします。よろしく」と言った。つべこべ言うことは避けた。

そして数日後（｛それは早々という感じだった｝「４月18日入院、同25日手術」が決まった。

　**九州歯科大附属病院**

**（　小倉北区真鶴町）**

